

国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 E-mail: jifrs.kaiyodai@gmail.com

郵便振替番号：00940-0-211673 国際漁業学会

2021 年度第 1 号

2021 年 7 月 5 日刊

目次

- | | |
|--|----------|
| 1. 理事あいさつ「魚食文化でより広く海を見る」 | 川辺みどり |
| 2. 2021 年度 JIFRS 大会（関西学院大会）のご案内 | 東田啓作・事務局 |
| 3. 2021 年度 JIFRS 大会シンポジウムテーマ
「日本の小規模漁業の持続可能性とその実現可能性：
スモールは今も果たしてビューティフルか」 | 李銀姫・浪川珠乃 |
| 4. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼 | 川辺みどり |

1. 魚食文化でより広く海を見る

川辺みどり（国際漁業学会理事・東京海洋大学）

2019年に JIFRS 理事を拝命した川辺です。研究の専門分野は沿岸域管理、東京海洋大学に所属し、学部では海洋政策文化学科、大学院修士課程では海洋管理政策学専攻の教育に携わっています。

私は大学院修士課程で海洋学を学び、博士課程では富栄養化や有機汚濁といった水環境問題について研究をしました。当時は、漁業や水産業の現場に行くことはあっても、環境管理についての調査が主な目的でした。2005年に東京海洋大学（以下、海洋大）に着任してから、同僚の調査に同行させてもらいながら漁業そのものの調査のために現場に足を踏み入れる機会が増え、人が海で魚を追うという、漁業のダイナミズムとその面白さを知りました。

そして2017年度に「魚食文化論」というオムニバス形式の授業を、同僚である学会長・婁小波教授と中原尚知准教授とともに担当する機会をいただきました。和食文化が世界に広く認知されるようになったのだから、海に特化した海洋大にも魚食文化を論じる授業があってもよいのではないかと、という婁教授の発案で、(一社)大日本水産会の協力を得て新たに開講した科目です。1888年に本学のルーツである大日本水産会水産伝習所の設置から数えて130年もの長い歴史を持つ海洋大においても、魚食文化の授業は初の試みです。

講師は、魚市場やスーパーマーケット、食品企業など、魚食の最前線で活躍をされている方々ですが、履修するのはおもに海洋政策文化学科1年生、今まで丸魚に触ったことが全く

ない、という学生もいます。実践的な魚食文化を論じていただくのですが、その内容は、文化としての魚食、魚食マーケティング論、養殖飼料から見た世界の魚食、国内外の魚食文化、魚の旬と季節感、魚のメニューと郷土の味、魚食普及活動の実際など、幅広く多岐にわたります。入学もない学生たちは、魚食のプロフェッショナルたちから水産の現場の話を聴きながら、魚食にかかわる文化や水産業への理解を深めていきます。

本授業のクライマックスは、終盤におこなう魚の調理体験です。魚食エッセイストの西潟正人さんにご指導いただきながら、学生一人ひとりがアジやイサキなどの丸魚をさばいて刺身やタタキなどをこしらえ、みめよく盛り付けます。腕に覚えのある学科教員や上級生も指導補助のために参加し、大いに盛り上がります。ここでの体験をきっかけに魚の調理に目覚め、自宅でも調理して食べるようになった、と報告する学生も少なからずいます。

ところが昨年春、コロナ禍のために海洋大ではすべての授業がオンデマンド型となり、魚食文化論も学生がそれぞれひとりで資料を読んだり視聴したりする形での実施となりました。楽しみな調理体験も、西潟さんが数種の魚を捌いて大皿に美しく盛り付ける動画を参考にしながら、学生がそれぞれで魚を用意して調理し、レポートを書く形式に変わりました。このときも講師のみなさんはすばらしい動画や資料を用意してくださいましたが、例年の魚の調理体験の盛り上がりを思うと残念でもありました。

そんなときに水産庁が、コロナの影響で売上げが減少している水産物を試供品として提供するという緊急対策事業を始めました。この事業に申請し採択されたことから、今年の1月から2月にかけて、中原准教授が、(一社)大日本水産会の早武忠利さん、浦安の鮮魚店・泉銀の森田釣竿さん、西潟さんの協力を得て、参加を希望した107名もの学生に272個の鮮魚ボックスを届けて、さばいて食した様子や感想を報告してもらおうというフォローアップ授業を実施しました。魚のさばき方は、西潟さんや早武さんが自ら動画を撮影して協力くださいました。

中身は見てのお楽しみ、というさまざまな鮮魚数種がはいったトロ箱を自宅で受け取った学生たちは、箱を開けたときの驚きや、魚をおろす際の苦労、その後に食べた魚の美味しさと喜びを書き綴り、数葉の写真とともに送ってくれました。学生の生活感あふれる文章はどれも読んで面白く、また、どの写真もとても美味しそうに撮られていました。なかでも、それまで会話のなかった家族とともに魚を調理したことで、今までの気まずさが薄れた、という学生が書いた「魚食を通じて発見した家族への愛」というレポートには、思い出してもつい笑みがこぼれます。

「食べる」とは生命の根源にかかわる行為です。それを支える漁業は、いふならば海を舞台とした、人と魚との命のやりとりです。学生の時には海の自然科学的側面しか見えていませんでしたが、漁業の現場をよく訪れるようになったことで、海で魚を追い、市場に出して他の人たちに食べてもらうという、漁業者の視点を多少なりとも得ることができ、より広く海を見ることができるようになったように思います。そのうえ、このような形で魚食文化にかかわる機会をいただき、海と人との、さらには人と人との、食を通じたつながりにも思いをはせるようになりました。このように視野を広げてくれためぐり合わせに、感謝しています。

2. 2021 年度 JIFRS 大会（関西学院大会）のご案内

東田啓作（国際漁業学会理事・関西学院大学）・事務局

2021 年度大会は関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス（最寄駅：阪急今津線 甲東園駅）にて行うことになりました。多くの会員、関係者の皆様からのご参加をお待ちしております。

会 場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス B 号館 1F
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原 1 番町 1-155

日 時：2021 年（令和 3 年）9 月 4 日（土）～5 日（日）



日 程：9 月 4 日午前 10:00-11:00 編集委員会（関西学院大学 B 号館 102 教室）

11:10-12:30 理事会（関西学院大学 B 号館 102 教室）

午後 13:00-17:35 シンポジウム（関西学院大学 B 号館 103 教室）

17:45-19:30 懇親会（未定）

9 月 5 日午前 個別報告（会場①:B 号館 1 階 102 教室、会場②:B 号館 1 階 104 教室）（個別報告申し込み数が多い場合、午後にも追加します）

午後 総会（B 号館 1 階 103 教室）

後援：関西学院大学



KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
関西学院大学

◆ 大会シンポジウム案

日時：2021 年 9 月 4 日 13:00-17:35

司会 浪川珠乃（漁村総研）、李銀姫（東海大学）

開会挨拶 学会長 婁小波（東京海洋大学） 13:00-13:05

解 題 李銀姫（東海大学） 13:05-13:25

「日本の小規模漁業の持続可能性とその実現可能性:スモールは今も果たしてビューティフルか」

報 告 1 山下東子（大東文化大学） 13:25-13:55

「持続性の視点から見る小規模漁業の特質と課題：中・大規模漁業と比較して」

報 告 2 井上清和（全国漁業共済組合連合会） 13:55-14:25

「小規模漁業を持続可能ならしめる日本特有の制度：漁業共済レビューを中心に」

	休 憩	14:25-14:35
報告 3	デレーニ アリーン (東北大学) 「小規模漁業の持続性とコモンズ：欧米諸国と日本の比較から」	14:35-15:05
報告 4	三木奈都子 (水産研究・教育機構) 「小規模漁業の持続性の根幹をなす漁業労働：その現状と対策」	15:05-15:35
報告 5	関いずみ (東海大学) 「持続可能な小規模漁業のための価値創造：女性や若者の起業活動からのアプローチ」	15:35-16:05
	休 憩	16:05-16:15
コメント 1	牧野光琢 (東京大学)	16:15-16:25
コメント 2	松井隆宏 (東京海洋大学)	16:25-16:35
ディスカッション		16:35-17:30
閉会挨拶	大会委員長 宮田勉 (JIRCAS)	17:30-17:35

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は 1 報告あたり 25 分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望する会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを、7 月 24 日までに国際漁業学会事務局 (jifrs.kaiyodai@gmail.com) までご連絡ください。また、8 月 7 日までに報告要旨（40 字×25 行以内）を、8 月 23 日までにパワーポイント等による報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

・報告論文について

シンポジウム報告および個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする 10 枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで（ただし、審査は原則として 2 回までとする）、掲載料は 1 万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

◆参加費・会費：当日受付にて徴収

大会参加費：一般会員 2,000 円、一般非会員 3,000 円（地元漁業関係者・学生は無料）

懇親会費：一般 5,000 円、学生 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7 月 30 日までにメールにて国際漁業学会事務局 (jifrs.kaiyodai@gmail.com) までお申し込みください。

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ (<http://www.jifrs.info/>) からダウンロードをお願いします。（8 月中旬に掲載します）

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

3. 2021年度JIFRS大会シンポジウムテーマ「日本の小規模漁業の持続可能性とその実現可能性：スモールは今も果たしてビューティフルか」

コーディネータ 李銀姫（東海大学）・浪川珠乃（漁村総研）

E・F・シューマッハー(1973)は「大衆による生産の技術は、現在の知識、経験の最良のものを活用し、分散化を促進し、エコロジーの法則に背かず、希少な資源を乱費せず、人間を機械に奉仕させるのではなく、人間に役立つように作られている」とし、「大量生産ではなく、大衆による生産」を強調したことで、一躍世界のベストセラーとなった。農業分野では、大規模化・企業化する農業の対抗概念としてスモール＝「小農」が出現し始めているが、成長産業化を目指し持続性とともにも効率性の追求を目指す漁業において、スモールはビューティフルたりえるだろうか。

漁業の持続可能性は古くて新しいテーマである。持続可能性概念が1987年のブルントランド委員会にて提唱されて以来、多くの議論と研究が重ねられてきたにも関わらず、その実現への道のりはまだ程遠く、漁業の持続可能性については今もなお議論が続いている。そうしたなか、資源の持続的利用や地域社会の維持等の可能性を持つ小規模漁業への関心が高まっており、小規模漁業研究が世界中で進められてきている。近年では、Blue Economy や Blue Growth のイニシアティブに起因するジャスティス・公正性問題、及びその小規模漁業の持続性への影響を危惧し、FAOの「持続可能な小規模漁業を保障するための任意自発的ガイドライン（2015年）」の履行の必要性を訴える研究が増加している。このようななか、漁業者の権利の保障や漁業者組織の確保等、上記ガイドラインの条件を多くクリアしている日本の小規模漁業が、持続可能性の先進事例として注目されている。しかし、長い歴史において沿岸資源を維持してきた日本の小規模漁業とはいえ、今日的な様々な持続性に関する課題を抱えており、効率性を求める成長産業化が唱えられている新漁業法下では、より一層持続性が問われることとなる。

そこで、本シンポジウムでは、日本の小規模漁業の持続可能性に焦点を当て、様々な側面から持続可能性に関してアプローチし、そしてその実現可能性について議論することを第一義の目的とする。これを通じて、Blue Economy や Blue Growth、成長産業化等の大変化時代の現在においても、スモールは果たしてビューティフルかという問いに対する今日的検証を行い、世界の小規模漁業研究の一助となることも目的とする。

4. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

川辺みどり（国際漁業学会学会賞選考委員長・東京海洋大学）

2021年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。賞の種類は以下の3種類です。推薦の際、歴代受賞者リストも参照ください。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。過去1年間（2020年1月～2021年4月）の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね40歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第19巻掲載論文（会誌としては未刊行（近刊）ですが、on line ジャーナルの第19巻に掲載されている和文・英文の論文が対象となります。

募集期間：2021年7月30日（金）締め切り

推薦方法：推薦する賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（婁小波 lou(at)kaiyodai.ac.jp）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2021年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

◆学会賞（国内賞）の歴代受賞者リスト

（2021年6月現在）

氏名	受賞時所属・職名	受賞年月日	備考
松田 恵明	鹿児島大学 名誉教授	2011年8月4日	功績賞
真道 重明	-	2012年8月5日	功績賞
八木 信行	東京大学 准教授	2012年8月5日	学会賞
中島 亨	東京大学 特任助教	2012年8月5日	奨励賞
松井 隆宏 原田 幸子	三重大学 准教授 株式会社地域資源経済研究所 研究員	2012年8月5日	奨励賞

榎 彰徳	NPO 法人 消費者支援機構関西 理事長	2013 年 8 月 4 日	功績賞
有路 昌彦	近畿大学 准教授	2013 年 8 月 4 日	学会賞
猪又 秀夫	水産庁	2015 年 8 月 9 日	学会賞
小野 征一郎	東京水産大学 名誉教授	2016 年 8 月 7 日	功績賞
黒倉 寿	東京大学 名誉教授	2017 年 8 月 6 日	功績賞
阪井 裕太郎	Arizona State University Post-Doctoral Research Associate	2018 年 8 月 7 日	奨励賞
森下 丈二	東京海洋大学 教授	2020 年 8 月 29 日	学会賞